

英国の幼児教育 (二)

黒田実郎

△教職員の資格及び給与▽

年令層の教育を専攻させます。

(A) 二才〜七才 (ナースリー及びインファント・スクール教育)

(B) 五才〜九才 (インファント・スクール及びジュニア・スクール低学年教育)

(C) 七才〜一才 (ジュニア・スクール教育)

ナースリー・スクール及びナースリー・クラスの教員 (Teacher) 資格は、一八才以後に教員養成大学 (Training College for Teachers) に入学し、三年間在学して、所定の科目を履習した者に与えられます。ナースリー教育は義務教育ではありませんが、初等教育 (Primary Education) の一部と見なされています。したがってナースリーの教員資格はインファント・スクールやジュニア・スクールの教員資格と同等です。

英国の教員養成大学卒業生には初等教育 (二才から一才まで) の教員資格が与えられますが、教員養成大学の二、三学年になると、学生の希望を考慮した上で、次の三区分に從って、特定

助手 (Nursery Assistant) の資格は、義務教育を終えた後にナースリーで二年間実習し、この間に二週二回講習会に出席して、最後に全国ナースリー試験委員会 (National Nursery Examination Board) が行なう試験に合格した者に与えられます。最終試験に合格した者を助手 (Nursery Assistant) 実習中の者を見習い (Nursery Student) と呼びます。

このために、イギリスのナースリー・スクールやナースリー・クラスには、三年制の教員養成大学を卒業した教員 (Teacher)、二年間の実習後に試験に合格した助手 (Nursery Assistant)、将来助手になることを目ざして実習中の見習生 (Nursery Student) さらに教員養成大学から派遣されている保育実習生 (Student) があります。教員と助手は有資格者であるため、教職員として取り扱われますが、見習い及び実習生は職員とは見なされません。

文部省や地方教育局はナースリー教育よりも義務教育に重点を置いている上に、教員自身もインファント・スクールやジュニア・スクールに就職を希望する者が多いため、ナースリーにおける教員の不足は深刻なものがあります。このため、ナースリーにおける一クラスの担当者は、教員、助手各一名となっていますが、実際には助手二名で一クラスを担当することが許されています。ただし、助手といっても二か年間の実習及び週二回の講義を終了して、保母試験に合格した者ですから、日本の幼児教育機関における助手とは違って有資格者です。

ナースリー・スクールと義務教育の教員資格は同等であるため、給与の面でも両者に差はありません。すなわち、ナースリー・スクール、インファント・スクール、ジュニア・スクール及びセカンダリー・スクールの教員の給与は同一です。

一九六三年度の給与の基準は表1の通りです。

表 1

勤年	続数	大学大受け	
		3年を格 育資	4年を格 育資
0	0	63万円 年俸	66万円 年俸
1	1	66	69
2	2	69	74
3	3	74	80
4	4	80	86
5	5	86	91
6	6	91	94
7	7	94	97
8	8	97	100
9	9	100	103
10	10	103	107
11	11	107	111
12	12	111	116
13	13	116	122
14	14	122	125
15	15	125	128

教員の初任給は月額約五二、五〇〇円で、日本の教員の給料と比較して、かなり高額に見えますが、英国の生活水準は日本よりも高いために、これだけの月給でも決して豊かな生活はできません。とくに住居費が高いロンドンでは、生活費がかさむため、特別地域手当として年額約六万円が支給されます。ちなみに、私は一九六三年から六四年まで約一年間、ロンドンに滞在しましたが、下宿料は朝食、夕食を含めて一週七、三五〇円、月額にして約三一、五〇〇円でした。英国人の一人当りの年間所得は日本人の約三倍ですから、英国教員の給与が日本の教員給与の約三倍にあつた

るのは当然の結果だと思われれます。

義務教育機関の校長 (Head Teacher) 及びナースリーの主任 (Superintendent Teacher) の給与は、在籍する子ども数によって差異があります。一九六三年における校長及び主任の手当は？

表 2

区 分	0	I	II	III	IV	V	VI
子ども数	1— 40	41— 100	101— 200	201— 300	301— 400	401— 500	501— 600
年額(万円)	18	25,5	33,5	41	47,5	54	60

表 3

年 令	16	17	18	19	20
職 種					
助手(年俸)	—	—	29.0	32.5	37.0
見習い(年俸)	22.0	23.5	28.5	30.0	31.7

(単位・万円)

表の通りです。

ロンドン地域の大きなコンプリヘンシブ・スクールの中には、学童数五、〇〇〇名程度のもがあります。表2には記載されていませんが、この場合は区分ⅤⅢで年額一七万七千円の職務手当が支給されます。

ナースリーの場合は最大のもので、子ども数が一〇〇名程度です。区分Ⅱが職務手当の限度です。

ナースリー助手及び見習いの初任給は年令によって差がありません。またロンドンの地域手当も二一才未満は年額一万五千元、二一才—二六才は二万五千元、二六才以上は四万円、年令による差があります。なにごとでも一律に規定しないのが英国人の特色といえるでしょう。

△デイ・ナースリー▽

デイ・ナースリーは文部省の管轄ではなく、厚生省に所属していますが、ナースリー・スクールやナースリー・クラスと関連した面がありますから、概要を述べます。

英国のデイ・ナースリーは、主に職業婦人の子どもや問題家庭の子どもを対象としています。したがって保育時間は一般的に長く、午前七時三〇分頃から午後六時三〇分頃までのものが多いよ

うです。職員は通常二交替で、時差出勤をしています。早朝出勤職員の勤務時間は午前七時三〇分から午後四時まで、他の職員の勤務時間は午前一〇時から午後六時三〇分までです。したがって時差出勤職員が重複する午前一〇時から午後四時までは、子どもに対する職員数が非常に多くなります。私が訪問した数か所のデイ・ナースリーでは、この時間内における職員と子どもの比率は一對五程度でしたが、午前一〇時と午後二時の乳児哺乳、午前八時三〇分と一時三〇分の年長児給食、午後三時三〇分のオヤツ (high tea) などの仕事がありますから、実際にはこれだけの職員数が必要だと思われれます。

ナースリー・スクールと同様に、デイ・ナースリーには一定したカリキュラムがありません。一日の保育の内容は自由遊びが中心で、年少児ほど睡眠、休息の時間が長くなります。太陽が弱く、雨天が多い天候のために、晴天の日には乳母車に寝かされて、デイ・ナースリーの庭で日光浴を受けている乳児をよく見かけます。日本の保育所とイギリスのデイ・ナースリーの差異の一つは子ども年令で、英国の場合には乳児から保護されます。デイ・ナースリーのほとんどは公立ですが、少数ながら私立のものもあります。私立のデイ・ナースリーの中には、ナースリー・スクールと保育内容が似たものがあります。

八 総 括

英国の幼児教育について、客観的な事実を羅列してきましたが、最後に私の個人的な印象を述べてみましょう。

英国の幼児教育は、貧民階級の子どもに健康な生活環境を与えることを目的として発足しました。とくにマックミラン姉妹が、一九一一年にロンドンのイースト・エンドに創設したナースリー・スクールは、英国の幼児教育史のみならず、世界幼児教育者の注目をひく画期的なできごとでした。

その後、ナースリー・スクールは次第に変貌をとげ、たんに貧民階級の子どもの福利だけを対象とした当初の役割から、次第に一般家庭児の幼児教育機関としての意味をもつようになりました。

今日のイギリスの幼児教育者は、ナースリー教育が子どもの社会性の向上や、好ましい人格の形成のために重要な役割を果たしていると考えています。また、義務教育機関であるインファント・スクールの教師たちも、ナースリー教育の教育的効果を十分に認めています。

ナースリー教育に対する教育者の高い評価と、一般の人たちの強い要望にもかかわらず、ナースリー・スクールやナースリー・

クラスの数は意外に少ないのが現状です。公立のナースリーと、地方教育局から運営費の補助を受けている私立のナースリーを合計しても、該当年令児の約四％がナースリー教育を受けているにすぎません。また、純然たる私立のナースリー・スクールや、*„as efficient”* として認められていない不完全なナースリー・スクールを全部含めても、幼児教育を受けている子ども数は、一〇％をはるかに下まわるでしょう。しかし、この数字だけで英国の幼児教育が日本よりも遅れていると判断するのは誤りです。英国の義務教育は五才から始まりますから、五才児は一〇〇％教育を受けているわけです。

つぎに、英国のナースリー・スクールは、貧しい家庭の子ども
の福利から、一般家庭の子どもの幼児教育機関として変遷してき
たことを先に述べましたが、一九六四年一月の統計によりまし
と、公立及び地方教育局から運営費を支給されている公認のナ
ースリー・スクールは、その五分の四が労働階級の住宅地域にあり
ます。純然たる中産階級の地域には、わずかに五％しかありませ
ん。したがって、公立及び地方教育局から運営費の補助を受けた
私立のナースリーの大多数は、労働階級を対象としたものだとい
えます。この結果、日本の幼稚園に相当する英国の幼児教育機関
は、数少ない私立のキンダー・ガーデンと、一部のナースリー・ス

クールだけといえるでしょう。

英国のナースリー・スクール及びナースリー・クラスの建物を
建築時期によって区分しますと表4、5表の通りです。

表 4
(ナースリー・スクール)

建築年代	%
1900年以前	11
1900年—1938年	16
1939年—1944年	51
1945年以後	22
	100

表 5
(ナースリー・クラス)

建築年代	%
1900年以前	38
1900年—1938年	41
1939年—1944年	11
1945年以後	10
	100

ナースリー・スクールの建物の約半数は一九三九年から一九四
四年にかけて建築されています。この時期の建物の殆んどは、戦
時中の急造組立ハウス(フレ・ハブ)であるため、現在では大修
理するか或るいは改築しなければならぬような状態です。むし
ろ、この時期より以前に建てられた建物の方が、煉瓦造りやコン
クリート造りであるために、改装さえすれば充分使用に耐えま
す。一九四五年以降の建物は、全体の二二％ですが、最近一、二
年間には殆んど新しい建物が建てられています。

ナースリー・クラスの方は一九〇〇年から一九三八年までの建
築が四一％、一九〇〇年以前のものが三八％で、全体的に老朽化

しています。しかし、この時代の建築は煉瓦造りであるため、内部さえ改造すれば充分に使えます。

このように、建物の大部分は老朽化しているか、或るいは戦時中の急造組立ハウスで改築を必要としています。生活水準が高い国柄だけに、建物の暖房や下水設備は、日本に比べてはるかにすぐれています。一例として、配湯設備の状態を数字で示しますと、洗面器に必ずお湯が出るような設備をもつナースリーは八六%、やや不完全な設備をもつもの一一%、非常に不完全な設備のもの四%、全くお湯が出ないもの三%となっています。

また、建物の管理や掃除が行き届いている面でも日本に比べてすぐれている点を見逃してはならないでしょう。

ナースリーに子どもを入れたいと望む親たちが多いため、公立及び地方教育局から補助を受けている私立のナースリー・スクールの大部分は、常時七〇名から八〇名程度の入園希望者リストをもっています。このため、最近二、三年間に "as efficient" と認められていないような私立のナースリー・スクールが増えてきました。これらの殆んどは文部省の設置基準に達していないと考えられますが、具体的な統計的資料が集められていないので、どの程度のものか判断ができません。私が訪問した未公認の私立ナースリー・スクールやキンダーカーテンの中には、運動場のないも

のもありました。

ナースリー教育に対する教育者の高い評価や、一般の強い要望があるにもかかわらず、なぜこれほどナースリーが不足し、また老朽化しているのでしょうか。この理由として私はつぎの三つの点を考えます。

一、従来の保守党内閣は、大学の増設、技術教育の振興、義務教育の充実に重点を置いたため、ナースリーを増設する財政的余裕がなかった。

二、義務教育が五才から始められているため、他の国ほど義務教育前の教育を拡充する必要が少くない。

三、イギリス人は一般的に幼児の家庭教育を重視する傾向があるため、中産階級以上で住宅条件に恵まれている場合には、義務教育就学まで子どもを家庭にとどめる者が多い。

量的には確かにイギリスの幼児教育は低調ですが、数字のみによって英国の幼児教育を過小評価するのは誤りです。幼児の個性を尊重し、自由で創造的な英国の幼児教育は、我々にとって学ぶべき多くの長所をもっています。また、最新の設備をもつ優れたナースリー・スクールの大多数が、低所得者の住宅地域にあるのも福祉国家、英国の特色というべきでしょう。

(聖和女子大学)